

図／地の反転と指標的類像

メラネシア民族誌におけるヤコブソン詩学の所在

浅井優一（東京農工大学）

人類学の存在論的転回が言われるようになって暫くになる。事物をありのままに受け取るという言辞にも象徴される通り、この転回においては、自己と他者、表象と現実、文化と自然、あるいは民族誌とフィールドといった二項の「対 (parallel)」を前提とし、その両項の肉薄として提示されるリアリズムの認識論ではなく、「対」が生起する事象や創発する現実それ自体に向けられた分析、その意味においてリアルを捉える存在論への転換が希求されている。

本発表では、メラネシア民族誌において存在論的と呼ばれている転回に焦点を当て、その中に、「言語」という問題系を接合することを試みる。とりわけ、ロイ・ワグナーのニューギニアにおけるウセン・バロクの儀礼論に端を発し、その後、マリリン・ストラザーンによるメラネシア研究、そして彼女のフラクタル論やサイボーグ論の基調をなしてゆくことになる「図と地の反転 (figure-ground reversal)」という視座が、かつてロシア未来派の詩人ローマン・ヤコブソンがチャールズ・パースの記号論を取り込んで展開した構造機能主義言語論の特に詩的言語に関する一連の洞察に類似するものであることを示唆する。その上で、発表者が調査を行ってきたフィジー諸島での儀礼的発話を取り上げ、それらが「地」から浮き立つ「図」として生起する詩的言語（韻文）を構成することを指摘し、連続性を切断することによって驚異、斬新、潜在を回帰的に実現するとストラザーンが論じるメラネシア的社会性の生成原理が、儀礼的発話などの韻文が喚起する詩的効果として顕著に示されることを論じる。以上を通して、言語を含み込んだ、あるいは言語使用を基点にした記述・分析に、存在論的転回以後の民族誌記述における一所在を見出したい。

ストラザーンは、バロクの人々が行う葬送儀礼において、儀礼が行われる石垣で囲われた空間が「水平に置かれた樹木」の類比物であり、その樹木は「統率者：女性：男性：豚：祖先」という配置によって構成される氏族集団を体現する図（形象）であるとする。その上で、儀礼の締め括りにおいて、樹木が倒立させられることが、樹木が常に根（＝祖先）によって支えられていることを明示すると同時に、氏族集団の構成要素の配置を転倒させることで、祖先に代わる新たな統率者という図を新しく析出すると捉える。そして、この「新しさ」は、氏族の関係が増大することによるものではなく、「水平の樹木」と「逆さの樹木」という同一の構成要素の布置を反転 (trope) させることによ

て「生成」するものであること、地は別の図であり、図はまた別の地であり得ると互いの潜在的な「対」の関係を切り出すことによるものであるとされる。

他方、ヤコブソンによる機能的言語論の要諦は、その中心に、話し手や聞き手といった一般に擬人化のオントロジーを伴って指示される主体ではなく、メッセージ自体、つまり生起する記号／事物を据えている点である。その上で、メッセージがそれ自体を含んで共起する発話に関わる特定の要素をいかに前景的に指し示すか、つまりメッセージとそれ自体を含んだ諸要素との指標的関係の強度を示す6つの機能を挙げた。その内の1つである詩的機能は、メッセージがメッセージ自体の形式を指標すること、つまり「メッセージがメッセージとして形象化する」という回帰的な事象を指している。言い換えれば、詩的言語は日常の中に現れる美、指標（地）を切断するようにして浮かび上がる類像（図）として生起するが、こうした言語は儀礼的発話などの韻文に顕著に見られる。例えば、フィジーで贈与交換儀礼が行われる際、贈与の受け手は、贈り手による贈与の申し出を記す発話が為された後に、その贈与の授受が完了したことを記念する対句的な発話に従事すると同時に、その結語として放たれる定型句である「マナ、それは真実である。永遠なり、永遠なり。(Mana, e dina. A muduo, a muduo.)」にも対句的特徴 (parallelism) が顕著に見られるが、こうした儀礼的言語は、今この時空に、無時間的で非連続的な時空を詩的に／反転的に喚起する形象（指標的類像）であり、現代フィジーの社会性を常に新しく切り出し続ける儀礼的な契機を成していると考えられる。

以上の論議を通して、本発表では、ソシュール以来、「閉じた象徴的体系」と理解され、西洋的認識論の中核を成すものとして位置付けられることによって、これまで存在論的転回においては正面から扱われてこなかったと考えられる「言語」という問題系を、ヤコブソン詩学を要石にしてメラネシア民族誌へと接合し、言語人類学による文化記述の可能性を提示したい。

<参考文献>

- 浅井優一 2017『儀礼のセミオティクス：メラネシア・フィジーにおける神話／詩的テキストの言語人類学的研究』三元社。
Jakobson, Roman 1987[1961] Poetry of Grammar and Grammar of Poetry. In *Language in Literature*. K. Pomorska and S. Ruby (eds.), pp.121-144. Harvard University Press.
Strathern, Marilyn 2004 Partial Connections (updated ed.). AltaMila Press.

キーワード メラネシア民族誌、図と地の反転、儀礼的発話、記号論、韻文、詩